栃木県　宇都宮市消防本部

栃木県　宇都宮市消防本部
消防長　　増渕　幸夫

魅力あふれる街「住めば愉快だ宇都宮」

宇都宮市は、栃木県の県庁所在地で、東京から北へ約100km、県のほぼ中央に位置しています。総面積は約416km²であり、北関東唯一の50万人都市です。

市内は、北部から西部にかけ、羽黒山、多気山、古賀志山などの丘陵があり、良好な自然環境に恵まれ、東部を流れる鬼怒川は地域一帯を潤し、のどかな田園風景が広がっています。

一方、テクノポリス（高度技術集積都市）に地域指定されるなど、工業都市としての顔も持ち、県内では工業製品の出荷額第１位を誇っています。さらに、東日本を縦貫する東北自動車道に加え、今年３月に、北関東３県を横断する北関東自動車道が全線開通したことで、更なる経済の発展が期待されています。

また、本市は「餃子」の街として全国的にも広く知られていますが、それだけではなく、「ジャズ」、「カクテル」、「大谷石」、「自転車」とバラエティあふれる食と文化の街です。加えて、最近では、サッカーの女子ワールドカップで初優勝した「なでしこジャパン」の安藤梢選手、鮫島彩選手は本市出身で、チームを世界一に導いた活躍に、街全体が大いに盛り上がりました。

中心市街地で行われた出初式

そんな魅力あふれる街を皆様に知っていただくため、ブランドメッセージ**「住めば愉快だ宇都宮」**を全国に発信しています。

この街と、50万市民の安全を確保するための消防体制は、１本部・４署・９分署、消防職員456名と消防団員2,097名（平成23年４月１日現在）で、消防車両は、はしご付消防自動車６台・救助工作車４台・高規格救急車17台など、計89台です。（詳しくは、当本部ホームページ、消防年報に掲載しております。）

日常生活の安心感を高めるため

本市では、第５次宇都宮市総合計画の基本施策の中に「日常生活の安心感を高める」という目標を掲げ、市民の安全・安心の確保に取り組んでいます。このうち、消防本部では、「消防力・救急救助体制の充実」の実現に向け、「通信体制の高度化」及び「救急救命士の養成」に、重点的に取組んでいます。

市民とともに実施した水防訓練

また、市全体で実施する水防訓練とは別に、昨年度から、新たな試みとして、過去に水害が発生した地区や重要水防箇所・急傾斜地危険箇所など52か所を対象に、近隣の住民や自主防災組織、消防団と連携して、避難訓練・水防工法指導などを含めた地域密着型の水防訓練を実施し、延べ6,600名余の市民にご参加いただきました。

その他にも、「都市型ロープレスキュー」の導入や「住宅用火災警報器」の全戸設置など、市民に安全・安心を届けるための施策に、職員一丸となって取組んでおります。

おわりに

今年３月11日に発生した東日本大震災では、本市においても震度６強の激しい揺れを観測しました。この影響で地震直後から市内全域で長時間停電となったほか、市の東部を中心に、住家の全壊９棟・半壊235棟を含む、計１万９千余の建物に被害（平成23年９月１日現在）がありました。特に内陸型工業団地では国内最大規模の清原工業団地で、多くの施設が損壊し、長期間にわたる操業停止を余儀なくされるなど、大きな被害となりました。

住宅用火災警報器設置推進の呼びかけ

この未曾有の災害を受け、消防職・団員への情報伝達をより確実にするため、本年度内を目途に携帯電話によるメール配信での出動指令体制の構築を図る計画であります。

今後も、さらに質の高い消防行政を目指し、市民の安全・安心を確保するため、様々な取組を実施してまいります。